

ミモザレター

第3回の発行となる本号は、
小児科 松原知代教授と眼科 權守真奈先生
からメッセージをいただきました。

自分のキャリアについて考えていますか？

小児科・教授 松原知代

「Tomoyo, 自分のcareerをどうしようと考えている？」と卒業8年目にポスドクとして留学した先のカリフォルニア大学サンディエゴ校の教授に聞かれました。「careerっていっても、私は別に出世したいわけではなく、小児科医として働いていきたいだけだけど」と思ってしまいました。色々お話しているときに、「careerは出世することではなく、自分がどう仕事していくかで、若い時から考える必要があるなあ」と初めて知りました。この単語に適切な和訳はなく「キャリア」とかかれていることが多いです。興味深いことに、文部科学省と厚生労働省が定義しているものは若干異なります。文部科学省が定義している「人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係づけや価値付けの累積」の方がとても重要に思います。

キャリアを念頭において日々研鑽する必要があります。そこに、結婚、出産、育児、介護といった人生の重要な出来事（ライフ）が重なってきます。もちろん、環境によって希望どおりにはいかないことも多いし、自分の興味や考え方も変化しますが、日々の労働に追われる中でも、ふと立ち止まって自分のキャリアについて考える時間が必要と思います。ワークライフバランスを考えての行動が大切ですが、今、何がpriorityかを考えましょう。努力なくして得るものはありません。1人でできないことは周囲の人たちの助けを得ることを恐れなくて欲しいと思います。助けを得たら、同じようにできる範囲で周囲の人達を助けてみましょう。お互いが助け合うこと、励ましあうことができるのが集団生活をしている人間の特性ではないでしょうか。そのための一つの手段として、女性医師支援センターの活動が広がっていくことを期待します。「どう頑張っていけばよいのか、身近なロールモデルがない」という声をよく聞きます。受け身ではなく積極的に疑問や要望をだしあって、活動を広げていきましょう。

また、「男女共同参画」ということについて、皆さんはご存じでしょうか。日本の男女共同参画は非常に遅れています。世界経済フォーラムが発表した2021年のジェンダー・ギャップ指数の総合順位は120位(156か国中)で、過去から今まで先進国でずっと最下位です。政府は改善すると色々な施策を発表してきましたが、まったく達成されていません。興味のある方は（ない方も一度は）「男女共同参画局」

<https://www.gender.go.jp/index.html>をご参照ください。なぜ、男女共同参画が必要かもあわせて考えて欲しいです。指導者が変わらないと組織は変わらないとあきらめずに、地道に努力していきませんか。

私の好きな詩人金子みすゞの詩の一節に「みんなちがって、みんないい」があります。自分と他人の個性を尊重しつつ、「自分のキャリア」ということを考えてみましょう。



女性医師からのメッセージ

眼科・学内助教 権守 真奈

私は2018年より当院の眼科に入局させていただきました。現在子供はおりませんが、夫と2人で共働きで生活しております。10代の頃に医師という職業を目指しました。その頃、当時は医師として仕事を続けることをただ漠然と想像しておりましたが、10年以上経った今、女性としての人生も歩んでいかなければならないと思っております。

現在、常勤医として当院で勤務しております。大学院にも所属しており、外来・手術・研究とバランスをとりながら仕事をしております。当局では様々な外来・手術症例を経験することができ、毎日が充実しております。医師として先輩方に教育していただき、後輩達に教育をすることで日々勉強の毎日です。また、研究も毎週土曜を中心に行っており、現在は糖尿病網膜症の研究をしております。



今年6月に眼科専門医試験を終え、仕事をしながらの勉強は学生時代と違い、とても苦労しました。勉強期間は夫に家事を頼んでしまうことが多くなりましたが、彼も私の大変さを理解してくれて、なんとか乗り越えることができました。私の夫は大学病院勤務を経て、埼玉のクリニックの皮膚科医として勤めております。私が遅くなる時は夫が夕飯を作ってくれており、家事は分担しております。文明の力を使用し、なるべくお互いの家事の負担が減るようにしています。

まだまだ医局の先生方にご迷惑ばかりかけておりますが、当医局では私生活の理解もあり、安心して仕事も励めます。

最後に、今後の女性医師としての支援の要望として、まだ子供がいない私ですが、今後もフルタイムで細く長く働ける環境がいつも整ってほしいと思います。

INFORMATION

令和4年8月1日より、女性医師支援センター専用スペースの「ミモザルーム」が開室しました。

埼玉医療センターのすべての女性医師の方が多目的にご利用できる部屋となっていますので、ぜひご利用ください。

女性医師支援センターでは令和4年7月22日に院内交流会を開催し、ご参加いただいた先生方に貴重なお話を頂くことができました。

ご参加・ご協力頂いた皆様ありがとうございました。

詳細は職員課までお問い合わせください！

<担当窓口>

事務部職員課：内線2121・mail：koshoku@dokkyomed.ac.jp